

## 【学校評価資料】

令和6年度自己評価表、保護者アンケート、児童アンケートの結果等から  
～本年度のグランドデザインをもとに考察する～

江東区立亀高小学校

校長 大湊 由紀子

### 1 最重点課題「確かな学力の向上」について

- 児童アンケート「18.時間を決めて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定的評価は全体の86.0%で、昨年度より4.7%上回った。保護者アンケート「3.家庭学習スタンダードに基づき、児童の学習習慣に向けて努力している」の肯定的評価は全体の93.2%となった。児童や保護者の意識が向上したと考える。引き続き、家庭との連携を図り児童の家庭学習の定着を図る。
- 児童アンケート「19.学校では、自分からすすんで学習に取り組んでいる」の肯定的評価は全体の91.7%と、昨年度より7.5%上回っている。さらに、主体的に学ぶ児童の育成に向けて、工夫を重ねる。
- 児童アンケート「20.友達といっしょに学び合い、考えを深めたり広げたりしている」の肯定的評価は、全体の93.9%と昨年度より2%上回っている。主体的・対話的で深い学びによる授業改善を全校で取り組んできた成果と考える。引き続き、主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善を図っていく。
- 児童アンケート「21.学校の授業が楽しいと思う」の肯定的評価は、全体の90.1%で、昨年度より1.7%上回っていた。さらに授業改善を推進し、授業が楽しいと思う児童を増やしていく。
- ◇全校で学力向上に向けて授業改善を行った。教員の意識改革が図られ、研究が充実した。令和7年度については、国語科を中心として授業研究を行う予定である。
- ◇児童が基礎的・基本的な学習を身に付けるために東京ベーシックドリルに定期的に取り組み、昨年度より成果があった。テストの時期を検討し、来年度以降も基礎的・基本的な学習内容の定着に向けて組織的に取り組む。

### 2 「感性豊かであたたかい心の育成」について

- 児童アンケート「3.友達を思いやり、仲良く生活しようとしている」の肯定的評価は93.3%と昨年度より2.2%下回った。児童同士より良い関係を構築できるよう、全教職員で丁寧に見守り指導の工夫をしている。
- 児童アンケート「4.詩や百人一首の暗唱ができるように練習したり、俳句づくりに親しんだりしている」の肯定的評価は全体の77.1%で、昨年度を2.3%上回った。保護者との連携を図り、主体的な取り組みとなるよう工夫していく。
- 児童アンケート「5.金管鼓笛隊では、進んで練習している(6年生のみ)」の肯定的評価は、全体の98.2%と、昨年度を11.9%上回った。今年度より夏の団地祭りはなくなったが、2月の児童向けや保護者向けの発表会に向けて計画的に練習している成果と考える。
- 保護者アンケート「5.こどもたちは、気持ちのよい挨拶や場に応じた言葉遣いをしようとしている」の肯定的評価は、全体の94.0%であり、昨年度より4.7%上回った。引き続き、家庭と連携を図りながら指導を充実させていく。
- 児童アンケート「7.情報モラルを学び、ルールを守りタブレットやスマホを使用している」の肯定的評価は、全体の90.8%であった。今年度は全学級で「情報モラル」に関する道徳の授業を行い、全校児童を対象とした2回の情報モラル集会を行った。その他、道徳科以外でも、情報モラルに関する内容を授業に取り入れた。道徳授業地区公開講座では、全学級が「道徳モラル」に関する授業を公開し、講師による講演も「情報モラル」に関する内容とした。このことにより、こどもたちのスマホやタブレット等とのかかわりをよく把握することができた。今年度の取組を通して、児童、教職員、保護者の情報モラルに関する意識を向上させることができたと考え、来年度以降も継続して取り組んでいく。

○児童アンケート「23.年間の目標に向けて、進んで読書をしている」の肯定的評価は、全体の72.0%と昨年度を0.7%上回っている。引き続き、読書活動の充実に向けて、工夫を重ねていく。

### 3 「健やかで強いからだの育成」について

○保護者アンケート「8.学校は健康増進につながる授業や持久走週間、持久走記録会、長縄チャレンジ週間等の活動により、体力向上を図っている」の肯定的評価は、全体の98.5%であった。また、児童アンケート「8. 体育の授業や持久走・縄跳びなどで運動に親しんでいる」の肯定的評価は90.8%であった。引き続き、体力向上に向けた取組を継続していく。

○児童アンケート「9.ボッチャのルールを知り、みんなで親しんでいる」の肯定的評価は、95.2%であった。今年度は、全学級で確実に実施したことがよかった。また、今年度より4年生の「総合的な学習の時間」の福祉に関する単元で「ボッチャ」を設定し、4年生が「こうとうボッチャ☆フレンドリーマッチ」に参加するようにした。

○児童アンケート「6.自分で、ゲームや情報端末、テレビなどのメディアとのかかわり方を考えて生活している」の肯定的評価は全体の83.8%であり、昨年度より2.2%上回った。児童が自分でメディアとのかかわり方を考えることができるよう、「セレクトメディアチャレンジ」を工夫して行い、さらに改善を図っていく。

○児童アンケート「33. 寝る時刻と起きる時刻を決め、すいみん時間を十分に取るように気を付けている」の肯定的評価は、全体の80.6%であり、昨年度を1.3%下回った。寝る時刻、起きる時刻について意識するよう指導し、十分な睡眠時間を確保できるように指導を工夫する。

### 4 「一人一人を大切にせる教育と支援」について

○保護者アンケート「10.学校は一人一人を大切にせる教育活動を行っている」の肯定的評価は、全体の90.2%となった。引き続き、一人一人を大切にせる教育活動を推進していく。

○保護者アンケート「11.学校は、友達同士のトラブルやいじめなどの生活指導上の問題、不登校傾向の児童の対応等を丁寧に行っている」の肯定的評価は、全体の94.0%であり、昨年度を8%上回った。今年度は、江東区教育委員会から示された「Action24」により、友達同士のトラブルやいじめがあった場合は、丁寧に聞き取りや事実確認を行い、迅速かつ組織的に対応した。また、保護者への連絡も丁寧に行うようにしたところ、早期に解決したことがあった。引き続き、迅速かつ組織的に対応していく。

不登校傾向の児童や保護者の気持ちに寄り添い、SC、SSW、関係諸機関との連携を図りながら、一人一人に応じた指導や支援を行った。現在、全く学校に来ることができない児童は、「0」となった。

### 5 「特別支援教育の推進」について

○保護者アンケート「12.学校は一人一人の教育的ニーズに応じた支援を工夫する等、特別支援教育を推進しようとしている」の肯定的評価は全体の87.2%であった。今年度は、ひまわり教室の担当教員が1.2年生の児童を対象に、ひまわり教室体験授業を行った。来年度は、全体保護者会にて、ひまわり教室についての概要や入級手続きの実際等について説明し、さらに周知を図っていく。また、全教職員で一人一人の児童の児童理解に努め、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行う。その際に、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を活用するとともに、SC、SSW、関係諸機関との連携を図る。

## 6 「防災、防犯、安全指導」について

○保護者アンケート「13.学校は生活安全、交通安全、災害安全について適切に指導している」の肯定的評価は、全体の97.0%であった。今年度は、6月の学校公開時に引き取り練習を行い、9月にはメール配信による引き取り訓練を行った。保護者の参加率が上がらないことが課題となっており、よりよい方法を検討していく必要がある。

日本の各地で相次ぐ災害を受け、実際に災害が起こった際にどのようにするか、「学校防災マニュアル」を教職員に周知し、避難所運営協力本部連絡会での話し合いや活動を充実させ、保護者や地域との連携について、深く考えていく必要を感じている。

## 7 地域・保護者との関係

○児童アンケート「34.地域やPTAの行事に進んで参加している」の肯定的評価は、全体の64.6%であった。地域やPTA行事は主に休日に行われていることが多いが、64.6%の児童が肯定的評価をしていることは、参加率としては、高いのではないかと考える。

○保護者アンケート「15.様々なPTA活動や地域学校協働本部による授業補助や読み聞かせ等により、保護者や地域は学校の教育活動に協力している」の肯定的評価は、全体の99.2%と非常に高い割合であった。アンケートの結果のとおり、保護者の方々には、PTA活動全体の運営、運営委員会の開催、各部の活動の他、学校行事へのお手伝い、道徳授業地区公開講座等への参加など、多くのご協力をいただいた。また、地域協働本部の皆様には、読み聞かせ、図工の補助、漢検、わんぱくの森クリーン大作戦、ドッジボールの練習とスーパードッジボールの引率等、多くのご協力を得た。地域・保護者との連携が図られていると考え、引き続き、協力をお願いしていく。

◎PTAや地域学校協働本部と十分に連携を図り、こどもたちの教育活動のため、健全育成のため充実した活動を展開できたと感じています。かかわってくださった全ての保護者・地域の皆様に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。